

名古屋大学マネジメント 情報システムの現状

名古屋大学 評価情報分析室
小湊 卓夫

報告の内容

1. 評価情報分析室の活動
2. マネジメント情報システムの全体
3. マネジメント情報の内容
4. 今後の課題

1. 評価情報分析室の活動



The screenshot shows the homepage of the Office of Evaluation Data Analysis (Eda) at Nagoya University. The header features a logo with a blue bird and the text 'Eda The Office of Evaluation Data Analysis Nagoya University'. Below the header is a search bar with the text '検索'. The main content is divided into two columns. The left column contains a navigation menu with links such as '名古屋大学マネジメント情報', '名古屋大学中期目標・中期計画', 'EDA情報', '室長からのメッセージ', '「名古屋大学マネジメント情報」の公開について', '活動記録', '設置要項', '中期目標', '情報源の所在 (学内のみ)', 'サポート情報', '関連リンク', 'スタッフ', and '連絡メモ (認証必要)'. The right column is titled 'What's New' and contains a list of updates with dates and descriptions, including '2003/07/18: 「中期目標・中期計画」掲載 New!!', '2003/07/18: 「トップページ」暫定更新 New!!', and several updates from 2002 and 2001 regarding staff changes and page updates.

評価情報分析室

The Office of
Evaluation Data Analysis
Nagoya University

検索

[日本語 | English]

名古屋大学マネジメント情報

名古屋大学中期目標・中期計画

EDA情報

室長からのメッセージ

「名古屋大学マネジメント情報」の公開について

活動記録

設置要項

中期目標

情報源の所在 (学内のみ)

サポート情報

関連リンク

スタッフ

連絡メモ (認証必要)

What's New

- 2003/07/18: 「中期目標・中期計画」掲載 **New!!**
- 2003/07/18: 「トップページ」暫定更新 **New!!**
- 2003/06/02: 「スタッフ」修正
- 2003/04/19: 「リンク」更新
- 2002/12/16: 「スタッフ」修正
- 2002/09/12: 「スタッフ」修正
- 2002/08/27: 「トップページ」更新
- 2002/06/27: 「トップページ」更新
- 2002/06/03: 「トップページ」暫定更新
- 2002/03/25: 「英語版」公開
- 2001/06/18: 評価情報分析室ホームページ一般公開
- 2001/05/02: 評価情報分析室ホームページ開設

<http://www.eda.provost.nagoya-u.ac.jp/>

1-1 評価情報分析室の中期目標

ミッション : 名大の良さを表現するMISの設計と開発

中期目標 : 目標・計画を評価基準にした指標の開発

大学評価・学位授与機構に対応するMISの開発

学内・国内および国際比較ができるプロフィールの開発

全学計画評価委員会の活動に対するサポート

MIS: Management Information System (経営情報システム)

本部・病院・
部局



情報マネージャ



ステイク
ホルダ

データ入力

データ出力

評価情報分析室



企画・開発・検証
分析・報告・
プランニング・サポート



入力インタ
フェース



出力インタ
フェース



自動生成
プログラム



データ
ベース

マネジメント情報の管理

オン・デマンドの
データ集約

要求

収集

レポート



学内・
学外動向

調査



執行部
役員

要求

名古屋大学マネジメント情報システム

本部・病院・
部局



情報マネージャ

データ入力

オン・デマンドの
データ集約

評価情報分析室



企画・開発・検証
分析・報告・
プランニング・サポート



マネジメント情報の管理

名古屋大学マネジメント情報システム

2-1 データの収集・集約

本部各課 各部局 各種出版物
などの多様な情報源



情報マネージャ



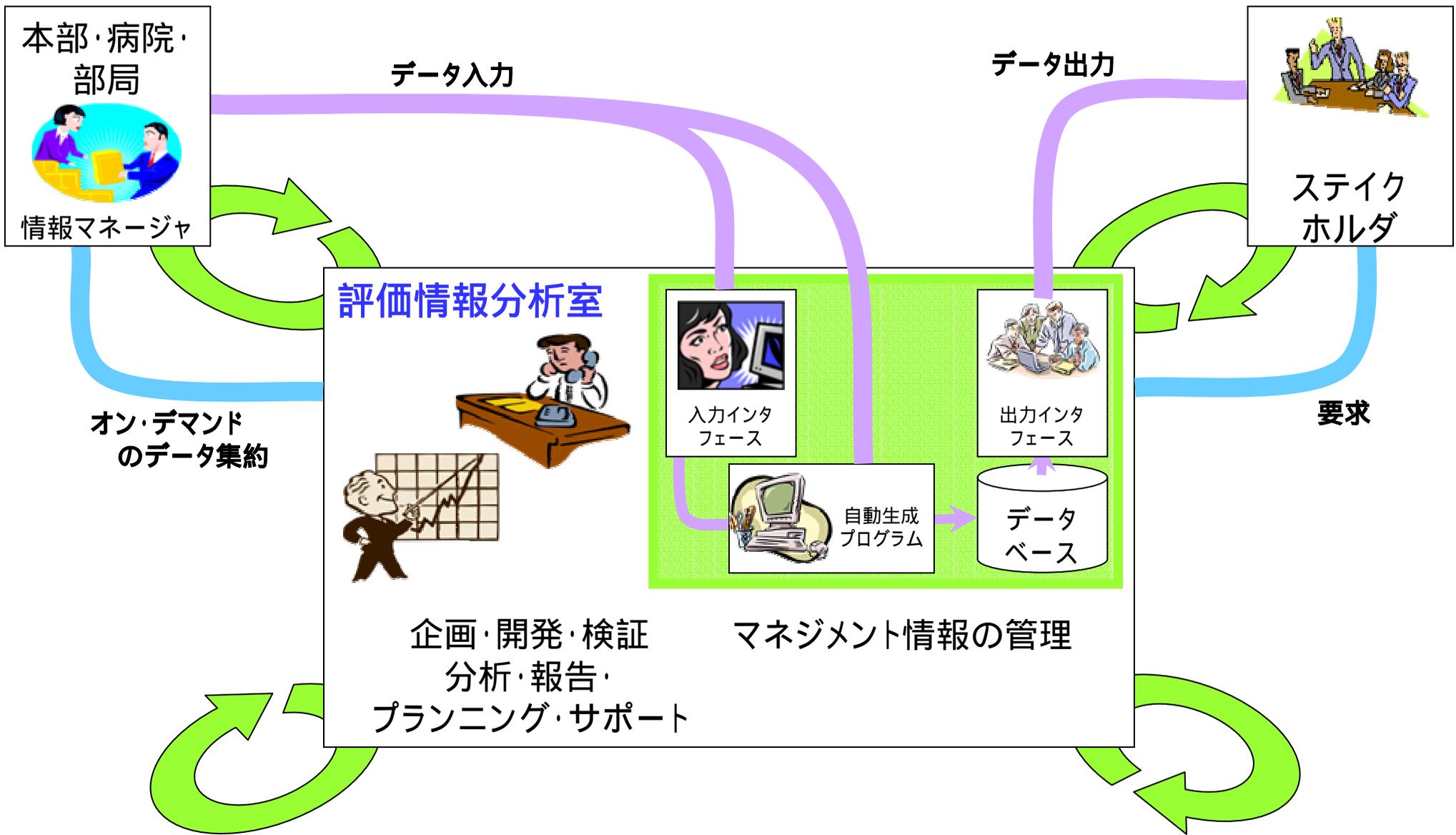
入力インタフェース

2-2 入力フォーマット

◇	C	D	E	F
1	教育			
2				
3				
4				
5	部局コード	500000		
6	入力者(担当者)氏名	木村大成		
7	入力者(担当者)内線番号			
8	データ入力日	2003.03.08		
9				
10				
11				
12	E1. 入学者数			
13				
14	データ基準日	2002.04.01		
15				
17	学部(除く留学生)	男性	女性	合計
18	入学定員			2135
19	志願者数	6,111	2,735	
20	受験者数	5,008	2,282	
21	合格者数	1,603	740	
22	入学者数	1,504	699	
23				
25	大学院(前期課程)(含む留学生)	男性	女性	合計
26	入学定員			1396
27	志願者数	2,182	856	
28	受験者数			
29	合格者数			
30	入学者数	1,234	430	
31				
33	大学院(後期・一貫課程)(含む留学生)	男性	女性	合計
34	入学定員			764
35	志願者数	501	268	
36	受験者数			
37	合格者数			
38	入学者数	406	181	
39				

2-3 自動生成プログラム

◇	A	B	C	D	E	F
1			教育			
2						
3						
4						
5	bukyoku		部局コード	500000		
6			入力者(担当者)氏名	木村大成		
7	regperson		入力者(担当者)内線番号			
8			データ入力日	2003.03.08		
9						
10						
11						
12			E 1. 入学者数			
13						
14	date		データ基準日	2002.04.01		
15						
16	rowSORT	3		300001	300002	300003
17	tableid	10100	学部(除く留学生)	男性	女性	合計
18	itemid	10101	入学定員			2135
19	itemid	10102	志願者数	6,111	2,735	
20	itemid	10103	受験者数	5,008	2,282	
21	itemid	10104	合格者数	1,603	740	
22	itemid	10105	入学者数	1,504	699	
23						
24	rowSORT	3		300001	300002	300003
25	tableid	10200	大学院(前期課程)(含む留学生)	男性	女性	合計
26	itemid	10201	入学定員			1396
27	itemid	10202	志願者数	2,182	856	
28	itemid	10203	受験者数			
29	itemid	10204	合格者数			
30	itemid	10205	入学者数	1,234	430	
31						
32	rowSORT	3		300001	300002	300003
33	tableid	10300	大学院(後期・一貫課程)(含む留学生)	男性	女性	合計
34	itemid	10301	入学定員			764
35	itemid	10302	志願者数	501	268	
36	itemid	10303	受験者数			
37	itemid	10304	合格者数			
38	itemid	10305	入学者数	406	181	
39						



名古屋大学マネジメント情報システム

2-4 出カインタフェース1

名古屋大学マネジメント情報 [日本語 | English]

更新情報

2003/07/01 「名古屋大学マネジメント情報 (Ver 1.2) 英語版」一般公開

2003/04/ 「名古屋大学マネジメント情報 (Ver 1.2)」一般公開

検索

目 標

財務・資源指標

成果指標

2002年度の部局データは調査時(2002年11月)の数値

学生・教職員

教育

研究

社会サービス

教育研究環境

その他

ベンチマーキング (他大学との比較)

経営改善指標

情報源の所在 (学内のみ)

各種調査結果

報告書・データベース

サポート情報

用語集

キーワード別指標

関連リンク

開発スタッフ

マネジメント情報のめざすもの

G(Goal)-R(Resource)-P(Performance)のGRPを、組織活動の思考と役割行動の枠組みとして構築します。目標Gはビジョンを実現する手段であり、財務・資源Rは共有された目標を達成する手段となる。成果指標Pは目標の実現度を表現する手段の一つとする。GRPの連鎖とその相乗効果を期待し、名古屋大学人のビジョンの実現に参加する。そんなGRPマネジメント情報を創ることが、われわれスタッフのこだわりです。

```
graph TD; G[目標 GOAL] --- R[財務・資源 RESOURCE]; R --- P[成果 PERFORMANCE]; P --- G;
```

名古屋大学マネジメント情報 Ver 1.2

<http://www.eda.provost.nagoya-u.ac.jp/mi/>

2-5 出力インタフェース2

名古屋大学

成果指標（学生・教職員）

目 標 財務・資源 成 果

名古屋大学全体

学生・教職員

- 学生数
- 学生の性別構成比率および学年別構成比率(%)
- 学生数[留学生]
- 学生の性別構成比率および学年別構成比率[留学生](%)
- 学生数[社会人]
- 学生の性別構成比率および学年別構成比率[社会人](%)
- 学生の年齢別構成
- 学生の年齢別構成比率(%)
- 教官数[教育職I]
- 教官の性別構成比率および職位別構成比率[教育職I](%)
- 教官の年齢別構成[教育職I]
- 教官の年齢別構成比率[教育職I](%)
- 名古屋大学出身教官数[教育職I]
- 名古屋大学出身教官比率[教育職I](%)
- 外国人教官数[教育職I]
- 客員教官数[教育職I]
- 非常勤教官数[教育職I]
- 非常勤講師比率[教育職I](%)
- 教官数[教育職II]
- 教官の性別構成比率および職位別構成比率[教育職II](%)
- 教官の年齢別構成[教育職II]
- 教官の年齢別構成比率[教育職II](%)
- 事務官数
- 事務官の性別構成比率および職位別構成比率(%)
- 事務官の年齢別構成
- 事務官の年齢別構成比率(%)
- 外注職員

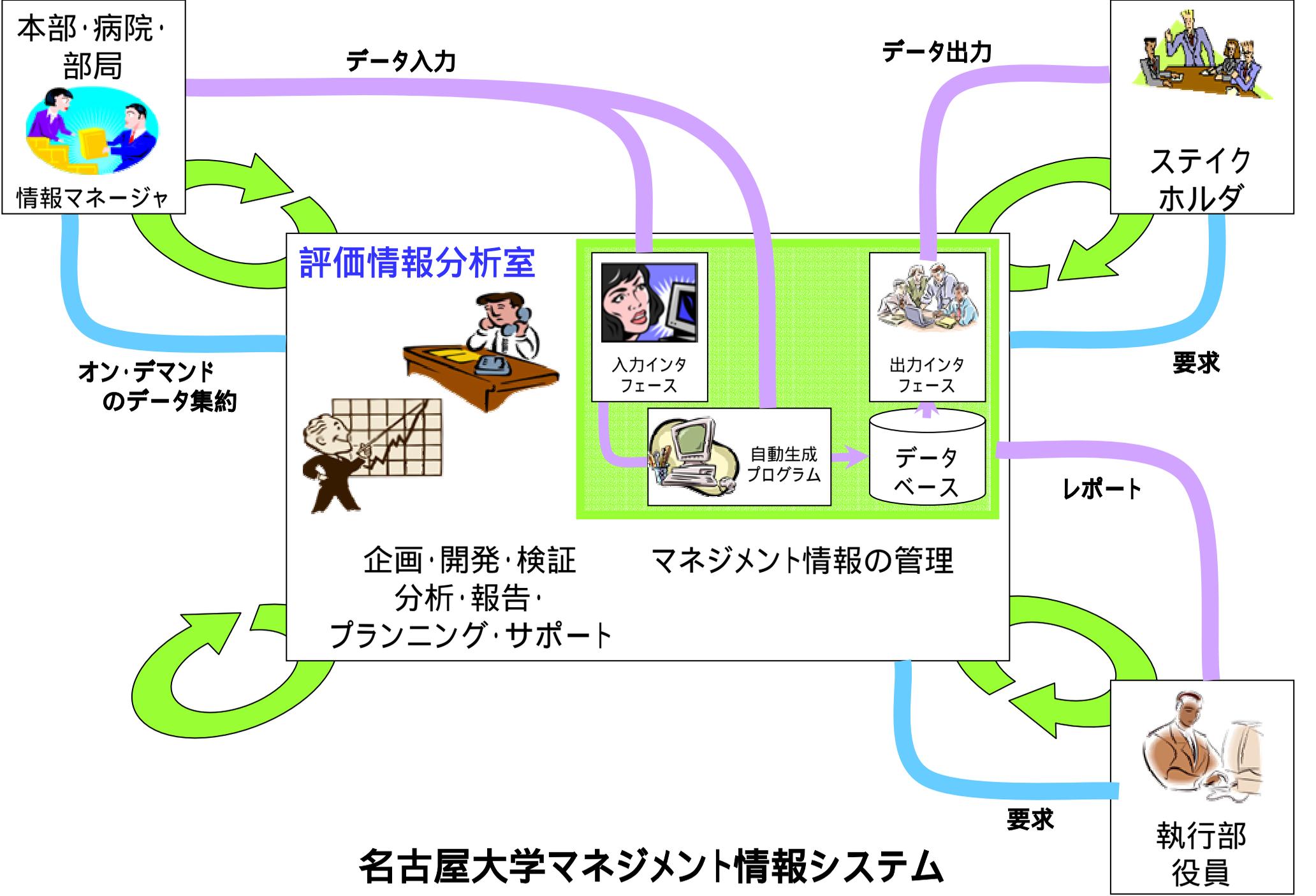
学生数

学部	2000年			2001年			2002年		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1年生	1575	677	2252	1557	650	2207	1521	718	2239
2年生	1709	723	2432	1669	672	2341	1639	653	2292
3年生	1743	715	2458	1625	765	2390	1602	707	2309
4年生以上	2317	669	2986	2327	844	3171	2248	910	3158
小計	7344	2784	10128	7178	2931	10109	7010	2988	9998
科目等履修生	7	18	25	7	7	14	7	15	22
聴講生	23	24	47	21	20	41	17	21	38
研究生等	471	214	685	394	220	614	315	199	514
小計	501	256	757	422	247	669	339	235	574
合計	7845	3040	10885	7600	3178	10778	7349	3223	10572

大学院(前期・修士課程)	2000年			2001年			2002年		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1年生	1266	341	1607	1289	376	1665	1242	432	1674
2年生以上	1294	378	1672	1365	400	1765	1388	434	1822
小計	2560	719	3279	2654	776	3430	2630	866	3496
科目等履修生・研究生等	166	75	241	168	87	255	177	101	278
合計	2726	794	3520	2822	863	3685	2807	967	3774

ただし、「大学院医学系研究科(医科学専攻・看護学専攻・医療技術学専攻・リハビリテーション療法学専攻)(修士課程)」を含む。

大学院(後期・一貫課程)	2000年			2001年			2002年		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1年生	455	191	646	414	182	596	410	182	592
2年生	409	182	591	429	185	614	401	179	580



名古屋大学マネジメント情報システム

2-6 大学執行部へのレポート

大学の持つ強みと弱みをデータを通じて明らかにする

プランニング・サポートの機能

本部・病院・
部局



情報マネージャ



ステイク
ホルダ

評価情報分析室



入力インタ
フェース



出力インタ
フェース



自動生成
プログラム



データ
ベース



企画・開発・検証
分析・報告・
プランニング・サポート

マネジメント情報の管理



学内・
学外動向



執行部
役員

データ入力

データ出力

オン・デマンド
のデータ集約

収集

調査

要求

レポート

要求

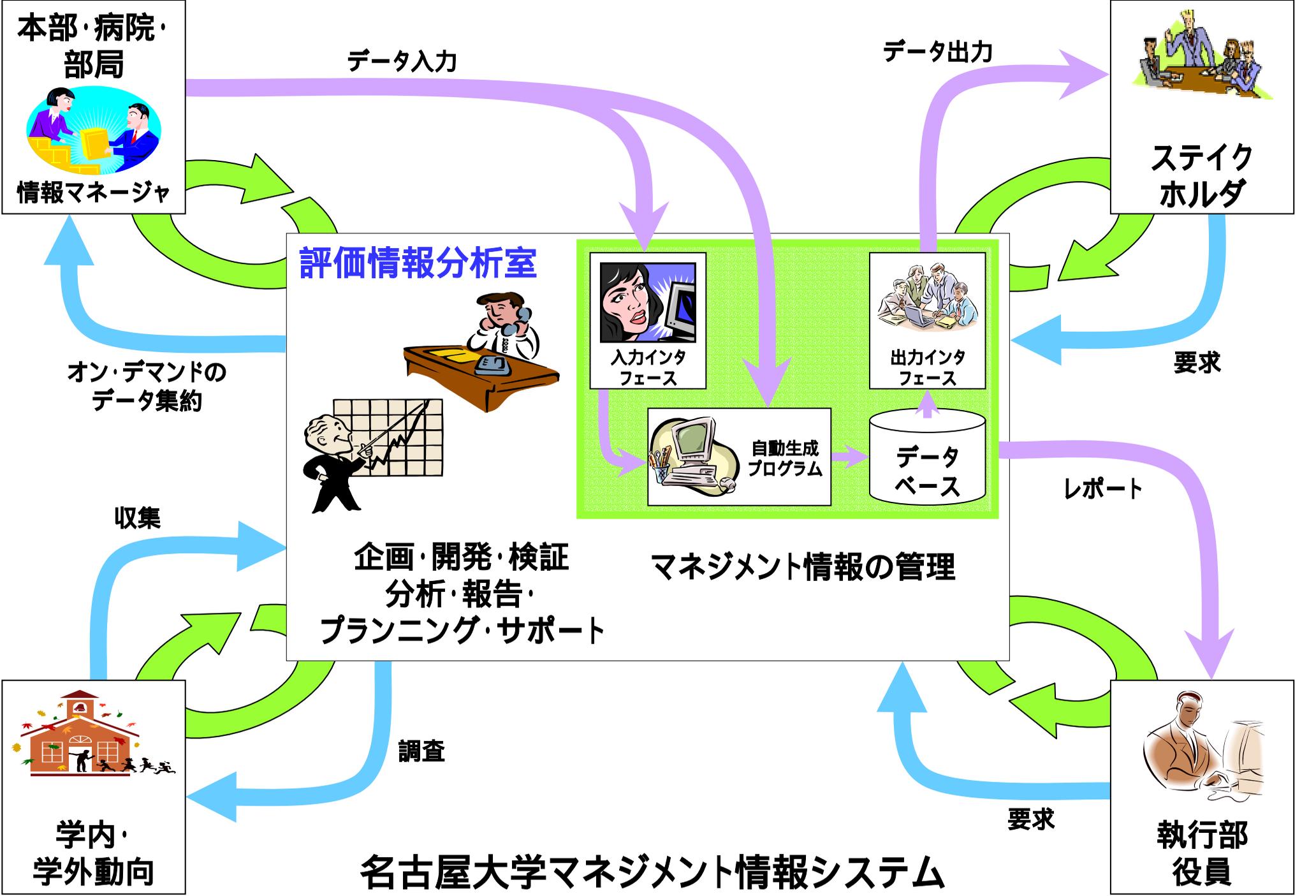
名古屋大学マネジメント情報システム

2-7 海外動向調査

イギリス、アメリカ、オーストラリアの
IR(Institutional Research)を中心に調査

2002年度：ハワイ大学、ウエスタン・オーストラリア大
学などを訪問調査

2003年度：アメリカの州立大学を訪問予定



本部・病院・
部局



情報マネージャ



学内・
学外動向

評価情報分析室



企画・開発・検証
分析・報告・
プランニング・サポート



ステイク
ホルダ



執行部
役員

データ入力

データ出力

オン・デマンドの
データ集約

収集

調査

要求

要求

レポート

入力インタ
フェース

出力インタ
フェース

自動生成
プログラム

データ
ベース

マネジメント情報の管理

名古屋大学マネジメント情報システム

3. マネジメント情報の内容

名古屋大学 マネジメント情報 Ver2.0

名古屋大学マネジメント情報

サイト内検索 検索 English サイトマップ

学術憲章

中期目標・計画

- 人 材
- 研 究
- 教 育
- 国際化
- 社会貢献
- 運営管理・組織
- 学術情報・環境基盤
- 病 院

統計データ

- 学生・教職員
- 教 育
- 研 究
- 社会サービス
- 教育研究環境
- 財 務

ベンチマーク

経営改善指標

情報源の所在 (学内のみ)

各種調査結果 (学内のみ)

報告書・データベース

サポート情報

- 用語集
- キーワード
- 関連リンク
- 開発スタッフ

名古屋大学マネジメント情報

Ver 2.0 2003.09.30
Ver 1.2 2003.04.11
Ver 1.1 2002.09.30
Ver 1.0 2002.03.18

更新情報

2003/08/15 「報告書・データベース」修正

2003/08/15 「各種調査結果」修正

……

室長からのメッセージ

マネジメント情報をリニューアルしました。改訂の主な理由は、名古屋大学の中期目標・計画の策定作業が着実に進んできており、目標・計画にそった評価情報（成果指標や基本統計情報など）という考え方に立って再表現が求められるようになったためです。

再表現のコンセプトを以下のような図に示しました。大学のミッション（理念）と目標・計画の立案・策定のプロセス、そして活動プロセスとそこから生成される成果や結果の公開プロセスという一連の流れのあちこちで評価情報が役立てられることとなります。

われわれ室のスタッフは、院生のパートタイムスタッフとともに、必要とされるときに必要な評価情報を求める人々に届けることができるマネジメント情報システムの構築を着々と進めています。

名古屋大学マネジメント情報システムのイメージ

大学のミッション

EDA 評価情報分析室

目標

計画

活動

成果

財務

名古屋大学 評価情報分析室
eval@eda.provost.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学

3-1 名古屋大学中期目標・中期計画案

名古屋大学の中期目標・中期計画（案）

名古屋大学版
平成15年7月9日現在

名古屋大学のミッションとビジョン

ミッション: 1. 人文・社会・自然の学問の質を高めた研究のコミュニティを創出し、世界屈指の知的成果を産み出す。
2. 基幹的総合大学にふさわしい学術と文化の置り書きキャンパスを築き、豊かな人間性を培い、真実ある知能人の育成に努める。
3. 先端的および多面的な学術研究活動と、国内外で指導的役割を果たしうる人材の育成を通じて、地域および産業の発展に貢献する。
4. 国際的な学術連携および留学生教育の一層の充実を図り、世界とつむぎアジア諸国との交流に貢献する。

ビジョン: 名古屋大学は、20年をマイルストーンとして、研究と教育の創造的な活動を通じて、世界屈指の知的成果の生成と真実ある知能人の育成に、情熱をもって取り組む大学となることを目指す。

戦略ドメイン	人材	研究	教育	国際化	社会貢献	運営管理・組織	学術情報・環境基盤	経営資源	病院
<p>目標は2層で表現する</p> <p>1層: 基本目標</p> <p>2層: 行動目標1</p> <p>3層: 行動目標2</p>	<p>1. 全国各地域及び海外各国から、高い志を持つ優れた学生と教職員を集める。</p> <p>(1)人事方針 公正で一貫性のある採用と昇進を公開し、卓越した志ある教職員を確保するような待遇を工夫する。</p> <p>(2)教育者 教育業績を重視した人材採用を推進するとともに、大学全体の教育実施体制の強化を図る。</p> <p>①優れた教育業績を持つ研究者の採用を増やす。 ②教職員の教員体制を充実する。 ③教育の専門能力を向上させる全学教員研修を奨励する。</p>	<p>2. 世界最高水準の学術研究を推進し、その成果を社会に還元するとともに、国際的研究拠点としての役割を果たす。</p> <p>(1)世界最高水準の学術研究の推進 人文・社会・自然の各分野で国際的及び全国的な水準で研究活動を行っている研究者を確保し、世界最高水準の学術研究を推進する。</p> <p>(2)研究成果の社会への還元 優れた研究成果を挙げ、それを社会に広く還元する。</p> <p>①優れた研究成果を学術専門誌、国際会議、国内学会等に公表するとともに、メディアを通して社会に積極的に発信する。 ②全学のホームページ、公開講座、シンポジウム開催等を通じて企画・広報機能を強化し、優れた研究成果をタイムリーに公表する。</p>	<p>3. 詳細研究力と詳細解決力に秀でた真実ある知識人として、新時代の要請に応える人材の育成を目指す。</p> <p>(1)国際水準の教育成果の達成 質の高い教養教育と専門教育を教養し、国際的に評価される教育成果の達成を目指す。</p> <p>①全学教育体制の強化策を講ずるとともに、教養教育の充実を図る。 ②全学教育、学部、大学院の関における教育内容の一貫性の向上を図る。 ③基礎型分野及び文理融合型分野の専門教育の充実を図る。 ④文理融合型分野の専門教育の創設を図る。 ⑤高度専門職業人養成を始めとする生涯教育体制の充実を図る。 ⑥教育の成果・効果を測定するための自己点検・評価を行うとともに第三者評価を積極的に導入する。</p> <p>(2)入学者選抜システムの改善 優れた資質を持つ学生を集めるために、学生の受入方針を明示し、それに合致した適切な入学者選抜方法を工夫する。</p>	<p>4. 研究と教育の国際交流の拠点の形成と事業活動の国際協力プロジェクトへの参画とを軸として名古屋大学のプレゼンスを高める。</p> <p>(1)国際協力・交流の拠点の形成と事業活動の国際協力及び地域社会に開かれた国際的な交流の全学態を形成し、関連の事業活動を創出する。</p> <p>①国際協力・交流に関するセンター及びナショナルセンター機能を持つ全学的組織の強化を図る。 ②国際学術コンファレンス(AICUI)により、国際フォーラム、専門分野ワークショップ等を国内外で定期的に開催する。 ③インター・大学ポータル等の構築により、他国の大学、教育研究機関との情報交換及び海外への情報発信機能を強化する。 ④外国の大学との連携教育プログラム及び共同研究推進制度を促進する。 ⑤外国の大学との単位互換制度を促進する。 ⑥外国の大学との共同学位授与制度を促進する。 ⑦日本語教育のオンラインコース教材の開発を支援する。</p>	<p>5. 文化・政治・経済及び産業の諸分野で地域社会の熟練した専門的意見と解決に貢献する。</p> <p>(1)地域文化の振興 全学範囲の公開を促進し、知的活動による成果の有効活用を図るとともに、地域連携機関と連携して地域文化の向上に貢献する。</p> <p>①図書館、博物館等の全学範囲の公開を進め、地域サービスを充実する。 ②地域文化の振興を図るための公開講座、講演会を開催する。 ③地方自治体と連携した文化事業を実施する。</p> <p>(2)産学官パートナーシップの推進 地域の活性化と産業に対して貢献できる産学官のパートナーシップ・プログラムを開発し、促進する。</p> <p>①行政、企業、シンクタンク、NPO等と連携し、地域社会の問題を調査・分析し、政策提言を行う。 ②地域社会との連携により、地域の防災、都市計画、保健衛生、福祉・安全の向上に貢献する。</p>	<p>6. 名古屋大学の学術活動の水準を向上させるために、組織活動の質的改善を自主的かつ自律的に行う。</p> <p>(1)組織運営体制の整備 自主・自律を基本に大学運営全般について見直し、強固かつ柔軟な組織運営体制を整備する。</p> <p>(2)重点戦略に基づく研究教育組織の推進 学内の研究教育組織の再編成と学内資源の再配分を研究基幹総合大学の重点戦略に応じて行う。</p> <p>①研究教育の高度化・国際化と文理融合を推進する。 ②教育、研究、運営等に関する成果に基づいた全学資源の配分ルールを確立し、その実行を図る。 ③満足度指標の利用 大学の活動全般に対する学内外の満足度指標を定期的に収集し、その活用を図る。</p>	<p>7. 国際水準の総合大学として自負できる、積極性、快活性、審美性、歴史性を備え、知の創造と交流を促す教育研究環境を創出し持続していく。</p> <p>(1)全学的視点での施設マネジメント 土地・施設を全学的視点で一体的・戦略的に整備・維持管理し、部局を超えた協働性を確保する計画・評価・管理の体制を確立する。</p> <p>①既存の多目的、専門部会及び事務組織を見直し、全学的・専門的な組織に再編・整頓し、効率的な施設管理を行う。 ②基本方針を策定するため、土地及び施設の運用評価システムを確立し、利用状況に関するデータベースの充実を図る。 ③すべてのキャンパスの土地・施設を有効活用する計画を策定し、推進する。</p> <p>(2)施設の整備及び維持管理の財源確保 安全で快適なキャンパス環境を実現するための施設整備及び維持管理の財源確保を図る。</p> <p>①施設の設備と維持管理のための多様な財源を確保し、必要な予算配分を行う。 ②新しい財源確保の手法を導入し、施設整備を推進する。 ③維持管理を一元的・効率的に推進する。</p>	<p>8. 大学法人経営が自主的かつ自律的に行われるために、財務資源の調達及び管理・運用と、知的財産の適正な活用を図る。</p> <p>(1)財源の多様化促進 自主的かつ自律的な運営管理を行うために、国及び民間の様々な資金導入を図る。</p> <p>①名古屋大学の収入として、運営費交付金、附属病院収入、学生納付金、外部資金、施設費補助金、借入金等多様な財源の確保を図る。 ②科学研究費補助金、民間等との共同研究、受託研究、奨学金交付等の外部資金の導入を増加させる。</p> <p>(2)自主財源の確保 名古屋大学が独自の活動分野を維持・強化するために、自主財源の創出を積極的に進める。</p> <p>①社会との連携を密にして、実社会の増加を図る。 ②資財者に対するインセンティブの付与、受入手続の簡素化に配慮した資財受入システムを整備する。</p>	<p>9. 患者中心の医療の質の向上を目的とした医療を行うために、権限と責任を明確化した運営管理体制を構築する。</p> <p>(1)医療の質管理 総合的質管理を実施することによって、病院のコアである診療活動が質の面で中核の面でも高い評価が得られるようにする。</p> <p>①医療安全、患者アプローチを含む医療の標準化を促進する。 ②プロセス評価及び実績評価を行う。 ③ISO等による外部評価を受ける。 ④適切な医療環境を整備する。</p> <p>(2)臨床教育・臨床研究のシステム化 国際水準の臨床教育及び生涯学習並びに臨床研究を実施するため、医学部・医学系研究所と附属病院の連携協力を密に推進する。</p> <p>①高度な専門性を有する医療従事者養成のための臨床教育及び生涯学習プログラムを整備するとともに、保健学等との連携強化を図る。 ②臨床研究を推進するための組織を充実し、病院主導の臨床研究プロジェクトを推進するとともに、高度先端・先進医療の開発を図る。</p>

3-2 中期目標・中期計画の掲載事例

名古屋大学マネジメント情報

中期目標・計画

HOME 学術憲章 中期目標・計画 統計データ ベンチマーク 情報源の所在 各種調査結果 報告書・データベース サポート情報

名古屋大学全体

- 人材
- 研究
- 教育
- 国際化
 - 基本目標
 - 行動目標・中期計画
 - 1.国際協力・交流の拠点の形成と事業活動
 - 2.国際共同研究・協力の促進
 - 3.留学生・外国人研究者サービス拠点の充実
 - 検証データ
- 社会貢献
- 運営管理・組織
- 学術情報・環境基盤
- 経営資源
- 病院

国際化

基本目標

研究と教育の国際交流と国際協力プロジェクトへの参画とを通して名古屋大学のプレゼンスを高める。

行動目標・中期計画

1（国際協力・交流の拠点の形成と事業活動）学内にクロスし、国際及び地域社会に開かれた国際交流を推進する拠点を組織する。

- (1) 国際協力・交流に関するセンター及びナショナルセンター機能を持つ全学的組織の強化を図る。
- (2) 国際学術コンソーシアム（AC21）により、国際フォーラム、専門分野ワークショップ等を国内外で定期的に開催する。
- (3) インター大学ポータル等の整備により、海外の大学、教育研究機関との情報交換及び海外への情報発信機能を強化する。
- (4) 外国の大学との連携教育プログラム及び共同研究指導制度を促進する。
- (5) 外国の大学との単位互換制度を促進する。
- (6) 外国の大学との共同学位授与制度を促進する。
- (7) 日本語教育のオンラインコース教材の開発を支援する。

→関連する統計データ

3-3 計画の検証事例

中期目標・計画 - 名古屋大学

成果指標 - 名古屋大学

外国人教官の推移

Year	外国人教員 (人)	外国人留学生 (人)	外国人教員 (人)	外国人研究者 (人)	外国人助教 (人)
1999	16	19	11	14	11
2000	20	21	11	9	11
2001	18	22	11	9	11
2002	14	22	10	17	10

このページは成果指標のイメージを示しているに過ぎません。

検証データ

3(1) 外国人研究者及び外国人留学生の受入れ体制を整備・拡充する。

- 外国人研究者の推移
- 外国人留学生の推移

→関連する統計データ

- 外国人教官数 [教育職]
- 学生数 [留学生]

4. 今後の課題

情報マネージャの組織化

出力インタフェースの改良

スタッフの専門性の確立

他機関との連携の強化